



動物レスキュー通信

2019年11月 第78号 (令和元年11月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく)：詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

愛犬、愛猫との別れ

様々な供養の方法



前回は愛犬、愛猫の最期を迎えるにあつて、心も含めどんな準備が必要なのかをお話しましたが、今回は最期を迎えてしまつた際にどのようにすればいいのか、どんな別れ方が選択できるのかをお話して行きます。私の場合、愛猫は病気の為、病院で息を引き取りました。その為、その亡骸は病院で綺麗に整えて下さいました。しかし、実際は自宅で亡くなる事も多いと思います。その場合はどのようにして亡骸を整えてあげればいいのか、少しでも知つておいてもらえると冷静に行動できる事だと思います。

綺麗に見送る

愛犬、愛猫がなくなってしまった直後と言つるのは、そのショックで何も手に付かないような精神状態になってしまつかもしれません。でも、せつかく送り出してあげのなら、綺麗な姿で送り出してあげたいものです。その為にも死後硬直が起る前に遺体を整えてあげる必要があります。愛犬、愛猫の身体が温かいちは、その温もりを感じてあげて下さい。しかし20分～30分ほどで死後硬直が始まり、足から順に身体が固くなってしまいます。万が一、不自然な体勢で息を引き取つていた場合は、身体が温かいうちに、優しく手足を折り曲げるなどしている状態なので、歓を下ろしてあげて下さい。又、息を引き取る際に体内に残つていた胃液が口から出でたり、肛門から排泄物や体液が出でる事もあります。それ

ほど大量に出てくる訳ではありませんが、頭の下に敷いて高くし、下半身にはペットシーツなどを敷き、肛門や口には「コットンなどをしておいてあげましょう。それで汚れてしまった場合は湿らせたタオルなどで優しく拭き取つてあげて下さい。そして亡骸が傷んでしまわないように涼しい場所に安置し、エアコンで室温を低めに保ち、夏場は特にタオル等で包んだ保冷剤を頭やお腹に当てておきましょう。亡骸に水分がつくと腐敗が進んでしまいますので、保冷剤は必ずタオルなどで包んで下さり。身体を触つて冷たいと思つくらい冷やしてあげる事ができれば、すぐに腐敗する事はありませんので、愛犬、愛猫とのお別れの時間を取る事が出来ます。人間でいえばお通夜のように、自宅で一緒に過ごす最後の夜を、後々悔いが残らないように過ごします。又、多頭飼いの場合には他の子たちに、仲間が亡くなつてしまつた事を理解してもらうためにも臭いを嗅がせてあげましょう。

供養の方法

一般的な方法としては火葬をします。火葬の方法としては①自治体に依頼する。②ペット葬儀社に依頼する。この2つの方法があります。①の自治体にお願いする場合は、費用は安価で済みますが、その多くの火葬方法は合同火葬です。火葬後は合同慰靈碑などに埋葬して下さる自治体や廃棄物として処分される自治体など、様々です。又、ごく稀に個別の火葬をし、返骨して

くれる自治体もあります。どちらにしておくといいでしよう。②のペット葬儀社に依頼する場合は、選択する葬儀社によって手順は変わりますが、飼い主さんが亡骸を持参する方法や葬儀社が迎えに来てくれる場合もあります。どちらにしておこなうかは、おもちゃなど燃やす事が出来るものであれば、「亡骸と一緒に棺の中に埋葬する」と言った十葬が普通に行われています。しかし、現在では集合住宅が多い事又、飼い主さんの愛犬、愛猫との繋がりの変化から、土葬はほとんど行われなくなりました。実はこの十葬、ワンちゃん、ネコちゃんが土に還るまでには最低でも60年以上もかかると言わされているため、保冷剤は必ずタオルなどで包んで下さり。身体を触つて冷たいと思つくらい冷やしてあげる事ができれば、すぐに腐敗する事はありませんので、愛犬、愛猫とのお別れの時間を取ります。庭に置いて供養する方法としては①自宅に置いて供養する(ペット用の仏壇用意し供養するなど手元で供養する)。又、お骨の一部をペンダントなどに入れて身につける等もできます。②庭に供養する③墓地に埋葬する(ペット霊園の墓地に納骨する)又、飼い主さんと一緒に入れる墓地もあります。④納骨堂に納める(仕切りある欄の1区画を借り、お骨を安置します。写真や位牌、お花などをお供えする事も出来ます)⑤散骨する(海や山などにお骨をまいて供養します。人と違ひペットに関する規制はありませんが、場合によつては不法投棄になつてしまりますので注意が必要です)。又、詩月財団と提携しているペースメモリアルでは宇宙への散骨や月面への散骨も行っており、空を見上げる事でいつでも愛犬、愛猫を偲ぶ事が出来ます。このように、愛犬、愛猫とのお別れには様々な方法があります。どのような選択肢があるかを事前に知つておく事で、心穏やかにお別れが出来るかも知れません。そしてそれが、今命ある愛犬、愛猫を大切にする心に繋がると信じております。(詩月)